

# 日本構造医学会 第4回東京大会特集

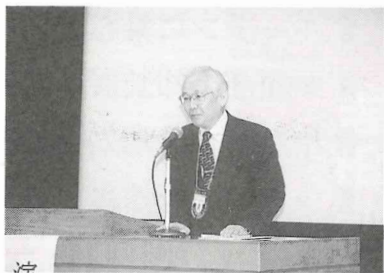
日本構造医学会の第4回東京大会（大会実行委員長・小椋教順氏）が、11月6・7の両日、真新しい明治大学リバティータワーで開催された。「企画性を重視した」（小椋氏）今大会では、大会の進行やシンポジウムにもさまざまな工夫がこらされ、会員以外にも積極的に参加をはたらきかけた結果、参加者は昨年の京都大会の3倍近い450人。構造医学の広がりや期待感がいかに大きいか、改めて実感させられた。

11月6日は、学術大会に先立って、学会会員のみによる非公開で総会が開かれ、決算報告・予算および執行役員の再任と事業案が承認された。また、学会の運営方針や今後の展開について、活発な意見が交わされた。

初日の午後から学術大会へ移り、小椋実行委員長ならびに吉田勸持学会会長が開会のあいさつをした後、明治大学商学部教授（保険学）の森宮康氏が、「臨床家のためのリスクマネジメント」について、内外の動向を交えながら具体的に解説した。なお、森宮氏には、会場の手配か



開会のあいさつをする吉田勸持会長



特別講演を行う明治大学商学部教授・森宮康氏。講演の後、吉田会長から森宮氏へ感謝状が手渡された。

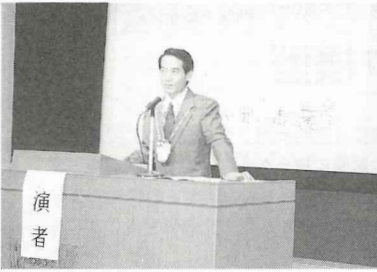
ら大会運営に関するアドバイスまで、準備段階から多大なご尽力をいただいた。

引き続き一般演題に移り、関口勝夫、宮地尚彦、加藤康、関谷康夫、井上充博の各氏を座長に、5部構成計12件の発表が行われた。

2日目の午前中は、先日に引き続き一般演題の発表が行われ、岡田智雄氏を座長に4件の発表があった。休憩の後、「生理的局所冷却療法」を統一テーマとしたシンポジウムに移り、吉田会長の基調講演および住岡輝明氏の教育講演に続いて、岡田敬治、仙人哲哉、落合喜博、



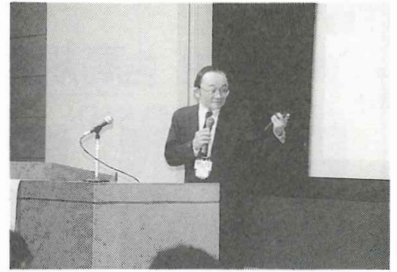
リバティータワーを埋めつくした参加者



大会実行委員長の小椋教順氏



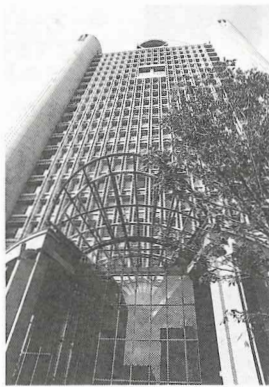
大会副委員長の瀬戸利一氏



総合司会の田中成治氏



パネルディスカッションの司会  
を行う宮地・関口の両氏



真新しい明治大学リ  
バティータワー 第4回  
東京大会は同タワー1  
Fのリバティーホール  
で開催された。



パネルディスカッションの様



中川仁(左)氏は患者とともに報告



リバティーホールのエントランス

坂路孝夫、関口勝夫、宮地尚彦の各氏をパネラーに、ユーモアあふれるパネルディスカッションが行われた。

このほか、生理的局所冷却療法をテーマにした症例報告4件、また、他の学会ではまぎみられない、患者自らが家族に対して実践した報告や、治療者と患者による共同報告も行われ、聴衆の感動を誘った。

また、今大会ではじめて展示会場が設けられ、

新医療技術開発機構のさまざまな機器類や書籍などが、リバティータワー11階の特設会場に展示された。

第5回大会は、来年11月11・12の両日、神戸市の所定施設で開催されることになっている。

なお、本誌では「第4回東京大会特集」として今号と次号で、大会の様態や発表内容の詳細を紹介していく。